
X・B・S 京介と桐乃の場合

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S 京介と桐乃の場合

【Nコード】

N8194Z

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それは一人の男の帰宅から始まった。クリスマス小説第26弾です

(前書き)

少し間に合わなかったけど自信作です!!!

ここはとあるアパート。ここに一人の青年が帰ってきた。彼の名は高坂京介。大学受験に成功し、ここで一人暮らしを始めた。そして、今日は12/25クリスマス

京介

「ふう、そういえば桐乃元気かな・・・」

桐乃は実は本当の兄妹ではなかった。それでも彼にとっては最高の妹である。そんな時、

ピンポン

京介

「ん？誰だろ？」

京介はドアの前に向かい歩いて行ったそしてドアを開けると、そこには・・・

桐乃

「メリークリスマス、お兄ちゃん」

京介

「き、桐乃!？」

そう、血縁上、義理の妹の桐乃である。彼女はサンタ衣装にコートをはおっていた。

京介

「さ、寒くなかったか？」

桐乃

「ちょ、ちよつとね」

京介

「まってる、なんかあったかいの用意するからな」

そういうと京介はココアを作って用意した。桐乃はそれを飲んだ。

桐乃

「あつたまる〜」

京介

「それより、なんでここへ？今日はクリスマスなのは知ってるが」

桐乃

「そ、それはね・・・実は・・・」

京介

「人生相談か？いいぜ、聞いてやるよ」

桐乃

「違うの・・・。お兄ちゃんにプレゼントがあるの・・・」

京介

「俺に？」

桐乃は持っていた箱を取り出した。京介も何かを思い出したか自分の部屋に戻りマフラーと手袋を持ってきた。

桐乃

「お兄ちゃん、これあたしに？」

京介

「ああ。今日みたいな恰好で来るのは予想外だったが、風邪引かないようにと思ってるな。それよりこっちも開けていいか？」

桐乃

「うん」

京介は桐野からもらったプレゼントを開けた。その中身は、天使の羽根のついたシルバーアクセサリーである。

京介

「桐乃が作ったのか？」

桐乃

「うん。自信ないけどノノノノ」

京介

「そんなことない。よくできてるよ」

桐乃

「そっか、それは良かった。それよりさ、あたしお兄ちゃんのことか・・・好きなの」

京介

「桐乃……」

まさかの告白。その返事に対し京介は……

京介

「ありがとう。俺もお前を一人の女性として好きだよ」

桐乃

「お兄ちゃん……ありがとう……」

桐乃はうれしさのあまり京介に抱きついた。

京介

「桐乃……」

桐乃

「お兄ちゃん……」

二人は見つめあいそして……キスをした。

そして、数年後。二人は結ばれた。もちろん実の兄妹ではないので結婚には問題ない。そして二人も愛し合っている。そう、この二人が結ばれないわけがない。

なお、この日桐乃は京介の部屋に泊まることになった。そこでの一部始終とお見せしよう。

夕食

京介

「桐乃あ〜ん」

桐乃

「あ〜ん」

京介

「どうだ？うまいか？自信作なんだ」

桐乃

「うんおいしい！最高だよ！」

京介

「そうか。頑張ったかいがあったよ」

このように二人のパーティーは進んでいった。

入浴

京介

「ふ〜、さてそろそろだな」

ガララ

桐乃

「お兄ちゃん、洗いつこしよ」

京介

「桐乃！？しょうがないな〜。いいぜ俺も桐乃のことを洗ってや

るよ」

桐乃

「いや〜ん。お兄ちゃんのエッチ〜／＼／＼／＼」

京介

「お前が言い出したんだろ〜〜」

このように桐乃がとまりに来る時の入浴はいつもこうである。

就寝

桐乃

「おやすみ、お兄ちゃん」

京介

「ああ、おやすみ」

桐乃

「……………」

京介

「どうした？桐乃」

桐乃

「ねえ、お兄ちゃん」

京介

「なんだ？」

桐乃

「あたしが蝶が付くほどのブラコンになっても愛してくれる？」

京介

「ああ。そういう俺も超シスコンだしな」

桐乃

「お兄ちゃん……………大好きだよ……………」

京介

「ああ。俺もだ……………」

そして二人は眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8194z/>

X・B・S 京介と桐乃の場合

2011年12月26日00時58分発行